

三条南ロータリークラブ週報

Sanjo Minami Rotary Club

2009.10.26

No.1930
No.13



出席率 | 会員54名中40名

先々週の出席率 | 91.84%

ヴィジター | 三条RCより 五十嵐昭一君
米山奨学生 舩・コフィ・アルフォソ君

先週の
メイクアップ | 10/21 三条RCへ
船久保孝志君 鈴木園彦君
10/24 第2530地区（福島）地区大会へ
～25 馬場信彦君 荻澤喜一郎君



会長挨拶

三条南ロータリークラブ 会長
佐藤 嘉男

挨拶をさせていただきます。

04年10月23日午後5時56分頃、マグニチュード6.8、最大震度7の新潟中越地震が発生、死者68人、負傷者4,805人と大きな被害をもたらしました。阪神・淡路大震災と比べると、住宅が壊れたり、土砂崩れの下敷き等の直接的原因の死亡は16人に対して、地震等のストレス、避難生活での持病の悪化によるもの、プライバシーのためグランドの中での車上生活によるエコノミクス症候群等の災害関連死が52人と非常に多く、これは山間部での震災で高齢の方が多くいたためだと言われています。

ただ単に雨露を凌げればよいという避難場所ではなく、避難環境を整備することによって、犠牲者の災害関連死を減らすことができるという反省から、その後の能登半島地震や中越沖地震に生かされました。

また、過疎と高齢化の問題も顕著に現れ、山古志村では、震災前、14の集落で人口2,200人、高齢化率37%だったのが、2年半の避難所生活で、地震の5年後、人口1,400人、高齢化率42%になり、通常15年かかる変化が、わずか5年で起きた計算になります。

中越地震から5年経ち、新潟日報のアンケートによると

1. 「住みにくくなった」3割の人が答え、その理由として
 - ①「集落に人が戻ってこない」
 - ②「近所付き合いが減った」と、過疎化が大きな要因となり、
2. 震災前に比べて「年収が減った」と答えた人は50%になり、その内の半数の人が3割以上減ったとしています。その理由として
 - 「不況で正社員から派遣社員になり収入が激減した」
 - 「会社は、地震災害と不況でダブルパンチだ」
 - 「地震をきっかけにした生業の不振」
 - 「集落の軒数が減り、客が少なくなった」

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

- I 真実かどうか
- II みんなに公平か
- III 好意と友情を深めるか
- IV みんなのためになるか どうか



国際ロータリー会長 ジョン・ケニー [スコットランド]
第2560地区ガバナー 植木 康之 [柏崎]
第4分区AG 米山 忠俊 [三条北]
会 長 佐藤 嘉男
幹 事 荒澤 威彦
S A A 熊倉 高志

事務局 〒955-8666 三条市旭町2-5-10

三条信用金庫 本店内

TEL 0256-35-3477 FAX 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp

URL http://www.sanjo-minami.jp

また、「田畑の被害による農地の減少」が18%で、3番目に多く、
「水脈が切れて 水が出なくなり、水田面積が10分の1に激減」
「2反の田んぼが地割れで直せないまま」

企業においても、生産設備が損壊し、操業停止に追い込まれるなど、大きな被害を受けました。この教訓を得て、県内企業は、災害時の早期事業再開の手順を定める事業継続計画（BCP）策定や備えを進めています。ただこの取り組みは、大企業が中心であり、三条のコロナは、05年に危機管理規定を改定、対策本部の設置基準のほか、情報収集・物資調達などの役割分担を明確にしました。

三条のオーシャンシステムは、7・13水害の経験から、県内4工場が被災した場合のバックアップ体制を構築、各工場で顧客データの共有や非常用に使い捨て容器の備蓄を始めました。県内で事業継続計画の策定済みは、わずか1.5%。策定中、策定予定を含めても1割程度です。

「自分の会社は必要ないだろうと先送りしがちであり、事例を学びながら意識を高めてほしい」と新潟商工会が提案しています。昨年4月より第四銀行がBCP策定企業向けに始めたコンサルティング借用などが対象の融資もあります。一回考えてみてはいかがでしょうか？

幹事報告

荒澤 威彦 幹事

植木ガバナー事務所より

- ① 地区大会 出席、協力お礼
※ 10月17日、18日 当クラブより18名出席
- ② 11月ロータリーレートのお知らせ
現行どおり 1\$=90円

東山ガバナーエレクト事務所より「2010～11年度アシスタントガバナー研修会」開催のご案内

日時 2009年11月14日（土）13:30～
会場 上越市 長養館

2560地区第4分区AG会より「第4分区AG会」開催のご案内

日時 2009年11月19日（木）18:30～
会場 松木屋

ニコニコボックス

NIKO-NIKO BOX

～10月26日 15,000円
今年度累計 207,000円～

佐藤（嘉）君 今月は「米山月間」です。米山奨学生のタキ君、本日はよろしくお願ひ致します。
昨日、休日高速1,000円を初めて使って軽井沢へドライブに行ったものの雨で大変でした。

荒澤君 寒くなってきましたのでお身体にお気をつけ、例会を休まれませぬように！

吉井君 今日は米山月間の卓話です。タキ君と「二本立て」でやります。スピーチは久しぶりで緊張気味です。よろしくお願ひ致します。

安達君 今月は「米山月間」です。タキ君、吉井さん、よろしくお願ひ致します。

田代君 吉井さん、タキ君 本日の卓話、楽しみにしています。

鈴木（囿）君 展示会につき、欠席です。
タキ君の卓話、聞けなくて残念！！
これからも頑張ってください。

吉田君 先日、函館の朝市で買った海産物が届きました。食べるのが私一人なので一年かかりそうです。

馬場（信）君 国際ロータリー第2530地区（福島県）の地区大会に、10月24～25日 荳澤さんと参加してきました。

姜順鉉先生と姜周延ご令嬢が地区大会に招待されており、姜先生は「近代史に見る韓日関係と奉仕の理想」と題して素晴らしい講演をされ、感動しました。涙、涙の連続でした。

荳澤君 10月24日、25日と開催された2530地区地区大会に馬場PGに同行させて頂き参加して参りました。その大会で馬場年度のRI会長代理の姜様とお嬢様にお会いして参りました。皆さんによろしくとのことでした。

西巻君 クラブから結婚祝いを頂き、記念日を思い出しました。有難うございました。

渡邊（久）君 このところ新インフルエンザが流行。皆様、ご用心下さい。

野中君 お久しぶりでした。BOXに協力！！

馬場（一）君 BOXに協力致します。

三野輪君 昨日は、爽やかな秋晴れの下、寺泊で海釣りをして参りました。釣果の方はアイナメ11匹と大満足。家に持ち帰り刺身と焼いて頂きました。うめかった！

「米山月間」に際して

米山奨学委員長

安 達 裕 会 員



10 月は「米山月間」です。米山記念奨学事業は日本最大の民間奨学事業であり、皆様よりいただいております寄付金は、全て奨学生のために使われています。また、この事業の大きな特徴は「世話クラブ・カウンセラー制度」、奨学金による経済的支援だけでなく、ロータリーとの深い交流と精神的ケアを重視しています。当クラブもタキ君という懸命に勉学に励んでいる奨学生を受入れ、前年度会長の吉井さんが、カウンセラーとしてタキ君の留学生活が充実したものになるようにいろいろと配慮されておられます。本日は、お二人のお話をお聞きし、米山奨学事業の意義を実感し、理解を深めていただければと存じます。

なお、昨年度の米山への寄付につきまして、2560 地区は、一人当たり平均寄付額 18,116 円（34 地区内 10 位）、当クラブは 18,836 円（57 クラブ内 22 位）でした。皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。今年度につきましてもよろしくお願い致します。

「留学生を通して見た『アフリカ』」

米山奨学生カウンセラー

吉 井 正 孝 会 員



5 ヶ月前まで毎週、例会で会長挨拶をさせて貰っていた事が、信じられない程、今日は緊張しております。

米山月間にあたり、奨学生のタキ君とコラボで卓話担当する事になって、改めてタキ君の祖国「コート・ジボアール」を含めてアフリカのこれまで・・・を、少し勉強してみました。

1960 年以降、フランスのド・ゴール大統領の方針に沿って、これまで仏国植民地だったアフリカの諸国が次々と独立。しかし、独立は果たしたものの、その後の政情不安の中、民族紛争が各国で頻発。その代表的なものとして、

- 南アフリカ共和国のアパルト・ヘイト ●アンゴラの内戦 ●ザイール（コンゴ内戦）
- スーダンの内戦 ●セネガル・モーリタニア紛争 ●リベリア内戦 ●ルワンダ内戦

等、アフリカ 約 30 カ国中、

十数カ国で、戦争・紛争・民族対立が勃発。独立間もない大事な時期、これらの国々の多くの人命と財産が失われてしまいました。

そんな時代の 1960 年。コート・ジボアールもフランスから独立。1961 年には、日本と国交を樹立。1966 年には、大使を交換。初代ボワニ大統領のカリスマ的指導力で、1960～1970 年代には「西アフリカの宝石」と呼ばれる程の奇跡的な経済成長を成し遂げました。

その彼が、国家建設の「手本」とした国が、わが日本であったそうです。その証として、この国の最大都市アビジャンの一等地を、日本大使館に提供した話は、有名な話です。

その後、小さなクーデターや内戦を経て、2000 年以降は、安定した国家体制が構築され、現在に至っているとの事。そしてこの 11 月には、大統領選挙が予定されていると聞きます。

15 世紀、西欧列強が、西アフリカに進出してきた時、交易した品に因んでこの地域を、「黄金海岸」や「穀物海岸」、「奴隷海岸」などと命名。その流れでこの国の旧国名は「象牙海岸」と名づけられました。現在この国には、「象」もいますが、主要輸出産品は、国民の約 60%が従事している「農業産品」。特にコーヒーとココア。チョコレートの原料となるココアの生産は世界一。ロッテの「ガーナチョコ」が日本では有名ですが、ガーナのチョコは、コート・ジボアールの生産量の半分かくらい。ちなみにタキ君の家も、「コーヒー農家」です。従って、この国から日本への輸出品も、カカオ脂、カカオ豆、ココアペースト等で輸出全体の 95%を占めています。在留邦人は約 80 名。日系企業は 3 社。（ジェトロ 2005 年調査）

独立早々に国交は樹立したものの、地理的な問題もあってか、国への若干の支援体制はあるものの、国交の浅さで「情報過疎」が否められません。

しかし、我々が殆んど知らなかったこの国にあって、初代大統領のボワニ氏が手本にした戦後日本の国づくりをはじめ、シンガポールの「リー・クワンユー首相」やマレーシアの「マハティール首相」ら、各国の指導者が尊敬し目指してきたかつての日本の国づくりの姿勢は、一体何処に行ってしまったのだろう・・・と、首を傾げてしまいます。

事実タキ君も高校時代、ノーベル賞受賞者 利根川 進 博士の論文に触発され、日本文化への関心を深め、現地で日本の「武道」を学び、祖国ではいまだ未開発分野の「バイオ」を学ぶべく大志を抱いて来日。日本語研修のあと、「血洗い」のバイトで生活費を工面しながら、長岡技術科学大学で学び始めました。祖国の豊富な資源を基に「バイオ・エタノール」の研究者として、同大学修士課程で学び来年3月卒業。その後は、「研究室」から「実践の場」へと、日本のバイオ関連産業への就職を目指して日夜奮闘中です。

しかし以前から、とりわけガードが固いこの分野。かつて好況時は、企業メセナと海外進出に向けた足がかりとして、「別枠」で外国人留学生を採用してきた企業も、この不況下にあっては、「採用ゼロ」や極端な人員の絞り込み。果ては、はじめからハンデを伴う日本人と同一線上での入社試験など、この分野で学んだ外国人留学生にとっては、これまでにない「冷たい現実」となっています。彼の夢、今の農業一辺倒の国からさらに進めて、「バイオで国を豊かに…」を理解してくれ、コート・ジボアールの国づくりを援ける度量の広い企業を、どなたかご存知ありませんか・・・？

ちょうど今回の卓話に照準を合わせたように、三条にもあるアパ・マンションやアパ・ホテルを経営するアパ・グループの機関誌「Apple Town」に、現コート・ジボアール大使 ポア・リリアン・マリール氏 と アパ・グループ代表 元谷外志雄 氏 との対談記事が載っていました。今年の正月、岐阜でタキ君はじめ日本で暮らすこの国の若者たちと大使との「交流会」があったことを、彼から聞いていました。同時にこの記事から、沢山この国の最新情報を知ることができました。大使は対談の中で、「今日の閉塞感を打破するために、日本はもっと世界に心を開くべき…」と語っておられます。(ポア駐日大使に敬意を表し、週報に彼女の写真を掲載しました。)

昨年4月。タキ君のカウンセラーをお引き受けしてから、1年7ヵ月が過ぎようとしています。この間、彼はわが家を3・4回訪れ、家族で寝食を共にしました。わが家の愛犬「ヤマト」も、タキ君がくると傍らに座り、頭を撫でて貰ってニコニコご機嫌です。彼を「わが家の人間」として認めている様子です。月一回お世話になる南 RC の方々のみならず、私の仲間とも、多くの交流の機会を持ちました。一方彼も、息子たちのイベントに積極的に参加してくれました。長岡で何か問題が起きた時のために、長岡在住の長男には、何時でも相談に乗れるよう指示しておきました。

タキ君の忙しい研究の合間をぬって、何回か一緒にミニ旅行もしました。佐渡トキ保護センターに今は亡き近辻さんと放鳥間もない「トキ」を訪ねて、一泊で佐渡に渡りました。タキ君の国でトキを観たのは、彼が最初だと思います。今年は米山交流会の行事で、「天地人」縁りの魚沼地方にも日帰りの旅に出かけました。

来年3月の卒業を控えて、今も大学で「バイオ研究」に没頭する毎日…。4月の就職を目指して日夜「就活」に奔走する彼を見ていると、「時代の荒波」とは言え、人を育て援けることの大切さ…とか、国を豊ませるための手助け…の必要性を痛感し、こちらまで憂鬱になってしまいます。少なくとも、ここ新潟に、そして三条に縁ある内は、「三条は…」、「新潟は…」、そして「日本はいい国だった」と記憶に留めておいて貰いたいのです。昔、幕末から明治にかけて、新しい国づくりを目指して、国を引っぱる若者が海を渡ったように…。

わが家の「三男坊」をどうかよろしく・・・！



ポア・リリアン・マリール大使

コート・ジボアール共和国大使館 駐日特命全権大使
母国で初等教育の後、フランスで中等教育を終了。再び母国で大学終了の後、スイスのジュネーブで語学教育を受け「通訳者」を目指すも「翻訳者」として卒業。その後、外務省に入り、デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド大使を歴任。2005年12月、日本大使として赴任。フィリピン、シンガポール、マレーシア、インドネシア大使も兼務。



米山奨学生親睦交流会にて
二〇〇九年八月二十九日

「米山奨学生ストーリー」

米山奨学生

タキ・コフィ・アルフォンソ君

皆さん、こんにちは。

私は、米山奨学金を受けているあるいは受けた奨学生について調査を行いました。

この調査の中でおよそ 15 名に「あなたはなぜ米山奨学金を受けましたか」という質問を聞きました。

多くの答えの中で、次の人の答えを皆さんにお伝えしたいと思います。

アジア諸国から来た彼女は 4 人兄弟の長女です。その次の弟と一歳しか離れていないです。学校へ行く歳になった時、貧しいお父さんは一人しか学校に行かせないと考えたそうです。しかし、誰を学校に通わせるかずっと悩んでいました。彼女は女の子だからどうせ途中でやめて結婚するでしょうとお父さんは考え、彼女の代わりに弟を学校に通わせました。しかし、彼女は、弟が学校に行く時に「私は弟より頭がいい」と毎朝泣きながら言っていました。その結果で 1 年後弟が学校をやめてしまいました。しかし、幼い弟にこう約束させられました。

「確かに、お姉さんはよくできる人ですが、私もバカではないのです。でも私の代わりにお姉さんに学校へ行ってもらいたい、二人のために成功して下さい。」

その時から彼女は弟のことを考えながら、毎日誰よりも努力してきました。優秀な成績で高校を卒業し、文部科学省国費留学生として選ばれ、来日しました。彼女にとってまさに『ジャパンドリーム』が叶いました。

しかし、彼女は高専学校を卒業と同時に 4 年間の奨学金が切れました。より高度な知識や技術力を身につけたいと思い、卒業後私費留学生として大学 3 年次に編入学しました。授業や研究の時間以外にアルバイトなどをして、学費や生活費を自分で賄いながら大変な生活を送ってきました。

弟との約束を守るために、更に修士課程への進学を考えました。修士の研究の忙しさで、アルバイトができなくなることから、学業を続けるかどうか悩みました。その時、米山奨学生に選ばれました。彼女はこう言いました。

「米山奨学金で私の二度目の『ジャパンドリーム』を与えてもらいました。この奨学金で私の学業を支えてもらっているだけではなく、日本の社会に再び紹介していただきました。」

彼女は将来、米山奨学を通じて学んだことを社会貢献に生かして、世界の子供を学校に行かせるように頑張っていきたいと考えているそうです。



2009年10月13日発行【月刊】
(財)ロータリー米山記念奨学会

ハイライトよねやま 116

4 台湾学友会による日本人対象奨学金がいよいよスタート

台湾米山学友会が設立した「日本人若手研究者奨学金」は、留学中に支援を受けた日本のロータリーへの恩返しに、台湾の大学・大学院で学ぶ日本の若者へ奨学金を支給し、日台の絆を深める人材を育てようとするもの。

学友からの寄付金を原資に、毎月 25,000 台湾ドルを 1 年間支給する他カウンセラー制度も備えて、台湾での留学生生活を物心両面で支えます。

その第 1 号奨学生に選ばれたのが、国立政治大学大学院へ留学する山下世莉（せり）さんです。9 月に渡台すると、台湾学友会では、空港への出迎えや宿舎への案内、歓迎会の開催など、万全の態勢で山下さんを迎えました。

山下さんは「空港で学友会の方が横断幕を広げて温かく迎えて下さり、それまでの緊張が一気に解けました。その後も、多くの元米山奨学生の方々とお会いする機会があり、留学時代のお話や、アドバイスを聞くことができました。阮理事長はじめ皆さんが、“私たちが台湾の家族だと思って、いつでも頼ってください”と言ってくださり、これほど心強いことはありません。米山学友会の奨学生になれたおかげで、毎日充実した生活を送ることができていると実感しています」と、感想を寄せてくれました。



オーストラリアのクラブがラジオでロータリーを紹介

オーストラリア東部・ビクトリア州のカンタベリーロータリークラブ（RC）では、2006 年からラジオ番組「Rotary and Community Service（ロータリーと社会奉仕）」を始めました。音楽を交えた 2 時間にわたるトークショーで、毎週、奉仕プロジェクトの紹介やどのように人々の生活を改善しているか、また一般の人々がどうやって活動に参加できるかを話題にロータリアンにインタビューを行っています。

今年度カンタベリー RC の会長に就任するまで、ブルーマーさんは 1 人でインタビュー役をこなしていました。現在は同じクラブの会員、ローターアクターも加わり、交替で月に 1 回ずつ番組を担当しています。

熱心に奉仕に打ち込むロータリアンやロータリー家族の人々と話ができるのが醍醐味、とブルーマーさんは話します。昨年 8 月には日本からの国際親善奨学生も出演したとのこと。

ゲストに余裕をもって準備してもらい、よいインタビューができるよう、各放送には十分前もって準備をして原稿を作り、トピックの予定も早くから組んでおきます。おもしろい番組を作る秘訣は、ゲストにオープンエンドの質問をすること、そして聞き手にとって魅力的な選曲をすることだそうです。



2008 年 8 月、収録を終えたブルーマーさんと国際親善奨学生 エンドウ・チナツさん



11月のお祝い

会員誕生 29日 船久保孝志君

夫人誕生 8日 武藤良子（昭三）さん

結婚記念

4日 馬場眞樹君 ・ 美恵子さん
15日 佐藤秀夫君 ・ 千枝さん

12日 野中 悟君 ・ 恵美子さん
29日 赤塚 寧君 ・ 康子さん

この辺でちょっと一休み

江戸山唄

自信

器量自慢の女房がおりまして、さる時、丁稚を供に連れて歩いておりますと、後ろでバサッと何やら落ちたような音が致します。
「今落ちたのは何だえ？」
「風でございます」
「なーんだ、私しやまた仙人かと思つた」
（寛政四、笑の都）

無駄骨

主人が下男に「客をもてなす時、わしが額をこすれば上の酒、胸をさすれば中、膝をたたけば下。きつと間違えるなよ」と、申しつけておきました、ある日、客人に酒をふるまうことになり、それとなく膝をたたきますと客人が、
「なることなら額をなでて下され」
（寛政五、醒睡笑）

東京銀座 RC 元会員
岡田晃雄著
「江戸小咄和英文柄」より



表紙について

モーリス・ユトリロ

(1883-1955)

「郊外の通り」

1908-1909 年

M.UTRILLO

ロータリーの友 1990 年 6 号表紙より

三條南ロータリークラブ週報

2009.10.26

No.1930 No.13